



発行所 愛媛県今治市大三島町宮浦
日本総鎮守 〒794-1393

大山祇神社社務所

電話 (0897)82-0032

FAX (0897)82-0019

<https://oomishimagu.jp/>

大三島海事博物館
大三島大社講



生土祭



赤土拝戴

一月七日午後七時、古式に則り大山祇神社の特殊神事の一つである生土祭が行われた。これに先立ち、当日昼過ぎにかつての神体山である安神山の麓において、生土祭で使用する赤土を採取する赤土拝戴神事が執り行われた。拝戴した赤土は同日夜の生土祭の神印拝戴の朱に使用するため、帰社後、赤土を細かく砕く作業を行う。生土祭にて神印を拝戴することで、



採取した赤土

この一年も当社での祭典奉仕を行うことができるといふものであるため、今年も当社の神職、内子全員が生土祭にて神印拝戴を受けた。また、生土祭では一年に一度の福木神事が行われ、福木が集った人々の中に投じられた。今年も岡山県の方が福木を獲得し、祭典終了後、家内安全祈禱を齎行した。



二月八日、毎年恒例となったプロサッカーチーム「FC今治」の選手・監督・コーチ等関係者四十九名が参拝に訪れた。昨年、念願のJ2昇格を達成した選手たちは、絵馬に「J1昇格」への力強い思いを書き入れた。その後、拝殿にて必昇(勝)祈願祭を行った。今年より、戦いの場をJ2へ移すFC今治の皆様様のさらなるご活躍をご祈念申し上げます。



FC今治必昇(勝)祈願

赤土拝戴神事・生土祭

一月七日

大三島大社講のご案内

大山祇神社は古くからこの大三島に鎮座し、日本総鎮守、伊豫國一宮と尊崇されてきた四国第一の古大社でございます。御祭神は大山積大神、またの名を和多志大神と申し、山岳を守護される神様であるだけでなく、五穀成就、海上安全、漁業満足、長命開運、造酒の守護神としても、広く知られております。古来、皇室を始め一般国民に至るまで崇敬が篤く、「大三島詣で」として知られ、遠近より参拝するものが絶えませんでした。そして崇敬者に満足を与え、便宜を図るため、昭和二年(一九二七)に当時の国幣大社大山祇神社の崇敬者団体として、大三島大社講は設立されました。皆様のご入講をお待ちしております。

【この講社の趣旨】

大三島大社講は大山祇神社の崇敬者を結集し、敬神崇祖の信念に基づき、至誠以て道義を高揚し神恩に奉謝し普く神人合力文明造化の真理を顕現し、大山祇神社の維持を図り次の事業を行う。

【この講社の主な事業】

- ・大山祇神社の神徳昂揚
- ・大山祇神社国宝重要文化財その他宝物保存修理

- ・大山祇神社祭礼神事の保存
- ・図書、雑誌の編集発行
- ・講演会の開催
- ・講社員募集並びに伝道
- ・その他本講社目的達成のために必要な事業

【入講後の主な待遇】

- ・家内安全家業繁栄祈願祭齎行の上、大麻を奉送する。
- ・講社大祭並びに毎月一日祭に講社員名簿を奉奠して家内安全家業繁栄の祈願祭を齎行する。
- ・大山祇神社宝物館拝観優待券贈呈。
- ・大三島海事博物館拝観優待券贈呈。
- ・社報「大三島宮」を贈呈。
- ・大三島暦を贈呈。
- ・大山祇神社例大祭・講社大祭他の御案内

【ご入講の手続き】

- ・名誉講社員 毎年 五十口以上
 - ・特別講社員 毎年 五十口以上
 - ・正 講社員 毎年 一口以上
- 但し、一口 金三千円也
- 入講に關しましては、当社ホームページをご覧ください。当社までお問い合わせください。




大三島暦



宝物館優待券

大三島大社講について、こちらよりご意見等お寄せください。入講の有無にかかわらず、どなたでもご回答いただけます。



〒七九四-1-1393
愛媛県今治市大三島町宮浦三三二七
大山祇神社内 大三島大社講
TEL 〇八九七-八二-〇〇三二
(午前九時～午後四時)

宝物さんぽ

第四回

国宝 澤瀉威鎧・兜・大袖付

今回は、「国宝 澤瀉威鎧・兜・大袖付についてお話しします。」

社伝では、平安時代の藤原純友の乱の際、純友の追捕のため越智 押領使好方が勅により錦旗を戴き、出陣戦勝の御礼に奉納したものと伝わります。

好方については中央の文献に残っていないのでまず藤原純友の乱とはどのようなものだったのか流れを追っていきます（諸説あるのでその一説）。少なくとも承平六（九三六）年時点では首謀者である純友は朝廷軍側にいました。前伊予掾である純友が、海賊を追捕すべしという宣言を受けたと記されているからです（『本朝世紀』）。ところが、天慶二（九三九）年、純友配下の藤原文元が備前国の支配をめぐって備前介藤原高子高と対立し、摂津の須岐駅にて十二月に文元らにより子高襲撃事件が起きてしまいます。翌年一月には備中の国府、讃岐の国府を襲撃します。しかし、朝廷は純友懐柔を試み一月末に純友は従五位下に叙せられます。純友は、朝廷か

らの申し出を受け入れます。その頃、東国でも乱が起きていました。平将門の乱です。天慶二（九三九）年十一月、常陸の国衙を占領し、十二月には親皇と名乗って朝廷に反旗を翻したので

す。朝廷が純友に融和的な姿勢をとっていたのは、この為でした。そうした中、翌年二月、将門の乱が終息しました。六月、様子を見ていた朝廷は文元らの追捕を決めます。それにより、八月、純友は動き出しました。伊予・讃岐・備前・備後国が純友軍に襲撃され紀伊国にも現われます。安芸・周防国、十二月には土佐国にも被害がありました。朝廷側も山陽道追捕使に任命していた小野好古を追捕山陽南海両道凶賊使に任命し宇治・淀・山崎に警固使を派遣し対抗します。翌年五月、純友は大宰府を占拠しますが、大宰府や博多津で好古率いる朝廷軍と交戦し敗れます。純友は本拠地伊予へと逃げ帰り、六月伊予国警固使 橘遠保により息子とともに討ち取られ、仲間たちも播磨国や但馬国で討ち取られて純友の乱は終息します。十月には山陽南海両道諸国の警

注釈 *1 藤原純友の乱（九四〇～九四一）

平安時代中期、藤原純友が瀬戸内海を率いて起こした反乱。『日本紀略』に「南海海賊徒の首、党を結び伊予日振島に屯聚し、千余艘を設け、官物私財を抄劫す」とある。

*2 藤原純友（？～九四一）藤原北家の出身で、乱当時の摂政藤原忠平は父良範の従兄弟。しかし、父が早くに亡くなったため都での出世は見込めなかった。史料に初めて登場するのは承平六（九三六）年であり、海賊追捕が命じられている。前伊予掾とあるが、いつの事かは不明。承平二（九三二）年に父の従兄弟の元名が伊予守に任命されているのでその時の可能性もある。

*3 押領使

令外官の一つで、兵を管理統率して地方の内乱や暴徒・賊を鎮圧・討伐した官職。

*4 前伊予掾

国司は守・介・掾・目があり、掾は三等官。つまり、伊予国では三番目の官位。子高の備前介は備前国の二番目の官位。

*5 藤原文元

純友配下とみられる備前国で勢力を持っていた純友の乱の切っ掛けになった人物。

*6 摂津の須岐駅

兵庫県芦屋市。おそらく芦屋駅の別名。

*7 讃岐の国府の襲撃

こちらは純友配下の前山城掾藤原三辰によるもの。天慶二（九四〇）年二月に淡路路の武器庫が襲撃され多くの武器が奪われるが、どの勢力かは不明。しかし、都では純友軍の仕業だと思われていた。同じく都でつけ火が相次いだ件もそう思われていた。

*8 従五位下

当時、五位からが貴族と考えられていたので、純友にとっても魅力的な話だった。



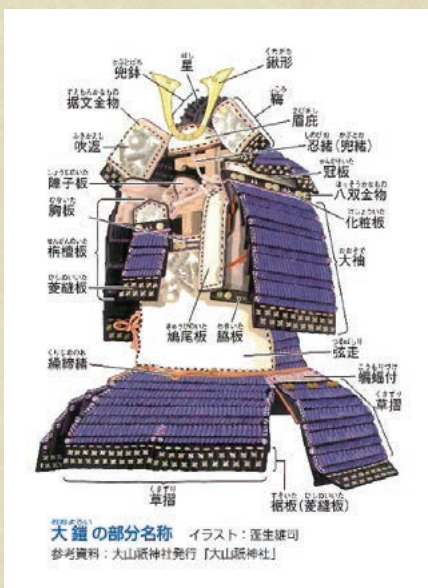
どちらも同時期に越智押領使好方によって奉納された

固使、押領使等を廃止しました。切っ掛けとなつた子高襲撃事件より約二年近くにも及びました。好方については河野氏の家記『予草記』に記述があります。天慶二(九三九)年、純友が九州を制圧したので、朱雀天皇から追討宣旨を受け、西国の軍兵を率いて三百余艘の兵船で九州に渡り、純友を討ち取ったとあります。純友の乱の後、天曆二(九四八)年七月、伊予国からの申請で越智用忠が海賊追捕の功により褒賞されている(『貞信公記』)ので、越智一族が朝廷側につき純友軍と戦い活躍したのは確かです。河野通有が幕府に海賊追捕の命を下された時「これ先祖の好方、純友を退治せしむる例に任せる所なり」と聞へける」とあります。海の武将として誉れ高い人物だったと伝わっていたのでしよう。

次に鎧についてですが、平安時代に入つて武士の勃興とともに戦闘形態が変化し、騎射戦が多くなり、それに適合するように上古・奈良時代を通じて使われた挂甲に短甲の長所を合わせて新しい形式の甲冑が誕生し、大鎧や胸丸、腹巻の甲に星兜と大袖を加えて日本独特の甲冑の姿になっていきました。中世甲冑の形が整つたのは天慶の乱頃から前九年・後三年合戦頃までの間で日本刀における彎刀(反り刀)の成立と同じ頃と考えられています。

この鎧は、胸板、壺板、障子板、冠板

などの金具廻の部分と綿嚙、弦走韋、蝙蝠付、兜の吹返などの革所はありませんが、ほぼ一領分の小札板を存しています。最も著しい特色は四つ組糸で縦取りに威した手法で、これは掛甲の名残を留めています。現存の大鎧としては最も古のものであるとともに式正鎧の発生時の姿を示す貴重なものです。兜についてはこの鎧に付属するものとは言い切ることはできませんが、ほとんど時代を同じくするものです。また、この鎧とともに奉納された太刀は、直刀から彎刀へと変化していく太刀初期の形式で、平安中期まで遡る太刀は極めて少なく、日本刀転換期の貴重な一振です。武士の登場当初の姿を偲ぶことができる一領、ぜひご拝観ください。



大鎧の部分名称 イラスト：蓮生雄司
参考資料：大山祇神社発行『大山祇神社』

*9 平将門の乱(九三五～九四〇)
平安時代中期、東国で桓武平氏の平将門によって起こった乱。承平五(九三五)年の時点で親族間の争いだった。はつきりと反旗を翻したのは天慶二年のこと。

*10 山陽道追捕使
追捕使は令外官の一つ。警固使や押領使等を統括する。当時は臨時の官であるが、乱後国単位で常設された。山陽道であるので最初は中国側の瀬戸内海に権限を限っていた。

*11 小野好古(八八四～九六八)
平安前期から中期の公卿。小野篁の孫で三蹟の一人小野道風(おのみちかぜ)の兄。武人として知られる一方、歌人としても有名。『後撰和歌集』『拾遺和歌集』に歌が載っている。

*12 追捕山陽南海両道凶賊使
凶賊使は地方の治安維持の為に命される官。後に国単位で常設された。山陽南海両道なので、四国全域も権限の範囲に追加された。

*13 警固使
乱が起きた際、交通の要所を守る為に設置された臨時の官。宇治・淀・山崎は瀬戸内海から都へ向かう際の要所。

短い為短甲と呼ばれた。
*18 大鎧
挂甲・短甲から発展した鎧。式正鎧とも言われ、本式な鎧、つまり、最も格の高い鎧。

*14 橘遠保
平将門の乱でも活躍し、藤原純友の乱では、純友討伐の功により、伊予国宇和郡を与えられたという伝承がある。天慶七年二月六日、帰宅途中斬殺された。純友軍の残党によるものとされている。

*19 胸丸
徒歩戦に適した鎧。大鎧は草摺四間が多いのに対し、八間が多い。重さも大鎧より軽く、胸廻が一続きになっており右脇で引き合わせる。着脱も簡易。古くは大袖がなく、胸丸式挂甲から影響を受けている。

*15 河野通有(一一五〇～一一三一)
伊予国の武将で、鎌倉幕府御家人。元寇の時に水軍を率いて活躍した。河野氏は越智一族。

*20 腹巻
胸丸を簡略化したもの。背後で引き合わせる。草摺は七間に分かれて小さい。密着度も高く、衣服の下にも着込めることもあった。

*16 挂甲
古代の甲冑の一種。小札を組紐・革紐で縦横に威したもの。胸廻が草摺と一続きで、正面中央で引き合わせる。次第に前合わせから右引き合わせとなつていった。

*21 天慶の乱
平将門の乱と藤原純友の乱のこと。承平天慶の乱とも言われる。しかし、承平年間とはどちらもはっきりと反旗を翻してはならず、今回は天慶の乱の名称を使用。

*17 短甲
上半身を守る防具。挂甲より

*22 前九年・後三年合戦
東北地方で起こった豪族同士

の戦い。前九年合戦(一〇五一～一〇六二)後三年合戦(一〇八三～一〇八七)

*23 胸板
鎧の胸部最上段にある板。

*24 壺板
鎧の右側脇に付ける板。

*25 障子板
肩の1部分の半月形の板。

*26 冠板
袖の上段にある板。

*27 金具廻
小札や兜鉢を除いた板の部分。

*28 綿嚙
肩上。両肩に掛ける部分。

*29 弦走韋
胸の前面から左側にかけて施された絵韋(なめした革に文様を染めたもの)。弓の弦が引つかからないようにするもの。

*30 蝙蝠付
草摺と胸を繋ぐための絵韋。

*31 吹返
兜の左右にある大きく上方にせり出し反り返っている所。

*32 革所
革が用いられている部分の総称。

*33 小札板
鎧を構成する小さな短冊状の板。

純友の乱 年表

年号	出来事
天慶二(九三九)	平将門が常陸国衙襲撃子高襲撃事件
天慶三(九四〇)	備中・讃岐の国府襲撃 従五位下に叙される 平将門の乱終息 伊予・讃岐・備前・備後襲撃
天慶四(九四一)	大宰府占拠 小野好古と交戦し敗れる 橘遠保により討ち取られる

お知らせ

「国宝 禽獣葡萄鏡」
奈良国立博物館「超国宝展」に出陳いたします。

〈展示期間〉
令和七年四月十九日～五月十一日

尚、令和七年四月八日～五月十四日の期間出陳中です。

例大祭の御案内

大山祇神社例大祭を来る五月十九日(月曜日)(旧暦四月二十二日)に斎行致します。

例大祭とは、当社の最も重要な祭典であり、当社の御祭神大山積大神様が現社地に遷座された養老三年(七一九)、旧暦四月二十二日を祝って、現在も行われている、歴史ある大祭でございます。

令和五年より通常通りの斎行をしておりますが、参拝に際しましては、混雑している場所では、適宜マスクをご着用ください。また、例大祭期間の御祈禱受付時間やご朱印対応等につきましては、随時更新致します。当社ホームページを御覧ください。尚、当日御参拝頂けない皆様には、貴家又貴社の御尊名を御神前に奉奠し、家内安全・事業繁栄の特別神楽祈禱を執り行っ



ております。

ご希望の方は【大山祇神社大祭神楽祈禱申込簿】をお渡しいたします。名簿に御家族、又会社・事業所の名前を記入のうえ大三島・大山祇神社事務所までお送りください。大祭に併せて祈願祭を厳修の上、神楽祈禱神符をお送り申し上げます。

五月 十八日(日) 午前十時

御 更 衣 御 戸 開 祭

五月 十九日(月) 午前十時

例 大 祭 併 講 社 大 祭

五月 二十日(火) 午前十時

後 宮 祭

住所等の変更、送付物の停止等に関しましては、ご一報いただけますと幸いです。



↑アンケートはここから

大三島宮祭事暦

令和七年四月～令和七年七月

四月	一日	一	日	祭
	二十二日	月	次	祭
	二十九日	昭	和	祭
五月	吉日	下	種	祭
	一日	一	日	祭
自	十二日			
至	十八日	宇	迦	祭
	十七日	神	殿	祭
	十八日	御	更	祭
	十九日	例	講	祭
	二十日	後	宮	祭
	二十一日	宇	迦	祭
	二十二日	月	次	祭
六月	三十一日	御	田	祭
	一日	一	日	祭
	二十二日	月	次	祭
七月	三十日	大	祓	式
	十九日	五	穀	祭
	二十二日	月	次	祭